

平成27年度 有老協サービス第三者評価結果

ホームID	ホーム名	法人名	評価日
2701	結びの杜ホーム	(福)旭川荘	H27.12.25
有老協HPでの評価結果公表希望		有	
評価機関	特定非営利活動法人 あい・ライフサポートシステム		

評価結果

スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価	スケールNo.	自己評価	機関評価
1.1.1	B	B	2.3.4	B	A	6.2.1	A	A
1.1.2	B	C	2.3.5	B	B	6.2.2	A	A
1.1.3	B	C	2.3.6	C	C	6.2.3	A	A
1.1.4	A	B	2.3.7	B	B	6.2.4	C	A
1.2.1	A	A	2.3.8	B	B	6.2.5	A	A
1.2.2	A	A	2.3.9	A	A	6.2.6	A	A
1.2.3	A	A	2.3.10	A	A	6.2.7	A	A
1.3.1	A	B	2.3.11	A	A	6.2.8	C	C
1.3.2	A	A	2.4.1	A	A	6.2.9	A	A
1.3.3	A	B	2.4.2	B	B	6.3.1	B	B
1.4.1	B	C	2.4.3	A	A	6.3.2	B	B
1.4.2	B	B	2.4.4	B	B	6.3.3	A	A
1.4.3	C	B	2.4.5	A	A	7.1.1	A	A
1.4.4	B	B	2.4.6	A	A	7.1.2	A	A
1.4.5	A	A	3.1.1	A	A	7.2.1	B	B
1.4.6	A	A	3.1.2	A	A	7.3.1	B	B
1.4.7	A	A	3.1.3	B	B	7.3.2	A	A
1.4.8	B	B	3.1.4	A	A	7.3.3	A	A
1.5.1	A	C	3.1.5	非	非	7.3.4	A	A
1.5.2	A	A	3.1.6	A	A	7.4.1	A	A
1.5.3	A	A	3.1.7	A	A	7.4.2	A	A
2.1.1	A	B	4.1.1	B	A	7.4.3	A	A
2.1.2	B	A	4.1.2	A	A	7.4.4	B	B
2.2.1	A	A	4.1.3	A	A	7.4.5	A	A
2.2.2	A	B	4.1.4	A	A	7.5.1	C	C
2.2.3	非	非	4.2.1	A	A	7.5.2	A	A
2.2.4	A	A	4.2.2	B	B	7.5.3	A	A
2.2.5	A	A	5.1.1	C	C	7.5.4	A	A
2.2.6	B	B	5.1.2	B	A	7.5.5	B	B
2.2.7	A	A	5.2.1	A	A	7.5.6	B	B
2.2.8	A	A	5.2.2	B	B	7.5.7	A	A
2.2.9	非	非	5.2.3	A	A	7.6.1	A	A
2.2.10	非	非	5.2.4	A	A	7.6.2	A	A
2.2.11	C	C	5.2.5	B	B	7.6.3	A	A
2.3.1	A	B	6.1.1	A	A			
2.3.2	B	B	6.1.2	A	A			
2.3.3	A	A	6.1.3	A	A			

評価機関の所見

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール	所見
2-4-6	災害対策には幾つもの「もしも」があり、完璧な備えは不可能に近いといえます。しかし、想定される問題点の一つずつ列挙し、対策を考え、職員の共通認識とすることが、事前に出る万全の対策と言うこととなります。当ホームでは地震対応計画書並びに消防計画書が整備されています。それらの計画書を基に年3回訓練が実施され、その内の1回は夜間を想定した訓練となっています。訓練の結果は防災訓練記録に纏められており、訓練の都度、問題点を明らかにし、対策を考え、次の訓練に活かす取り組みが実践されています。
3-1-1	平成19年8月に結びの杜ホームは開設され現在9年目を迎えています。入居定員も30名と中規模のホームとなっています。居室内は勿論、廊下の幅員確保や水回りについても完全ハリアフリー構造となっており、入居者の自由な行動が確保されています。しかしなんと言っても開設者のこだわりは、居室5部屋ごとにリビングスペースを設けてそれを一つのユニットとし、そのユニットが扇型に6つ平面配置された建屋構造となっているという点にあります。古来日本の地域コミュニティーの原形を意識すると共に、出来るだけ施設っぽさを感じさせない小じんまりとしたユニットごとの空間は、入居者にとって安らぎの空間となっていることが伺えました。
4-2-2	6つのユニットが扇型に配置された中央に、ゆったりとした広さの共有スペースとして「健康生きがいホール」が設けられています。ゆったりとした木目調の明るいこのホールで様々なアクティビティが計画的に実施されています。特筆すべきは、入居者の身体機能を維持する為に様々な体操が行われていると言う点にあります。ラジオ体操やボール、ゴムバンド等の器具を使った体操、更には音楽に合わせて歌を歌いながらの体操、上肢・下肢を動かす体操等々、多面的な体操が工夫を凝らしながら、ホーム全体の取り組みとして毎日実施されています。その取り組みが、入居者の身体機能の維持並びに居室内での閉じこもり防止に寄与しています。
5-1-2	高齢者の生活の中では、食べることは大きな楽しみの一つです。生活にリズムを作り、季節感も感じられ、又、食べることにより心理的な満足が得られます。その大切な食事に対して、入居者からのニーズを把握して、より満足して頂ける食事の提供に努めることは、ホームとしての大きな努めとなります。当ホームでは提供する全ての食事に対して、「検食簿」なる記録表を作成しています。残量チェックを行うと共に、主食の分量や炊き方、副食の分量、味付け、盛り付け等、入居者からの感想や意見を的確に吸い上げ記録に残しています。その記録を月1回の「給食会議」に反映させ、より満足度の高い食事に繋げる取り組みが実践されています。

2. さらに取り組むことで、より質の向上が可能と考えられる点

スケール	所見
1-1-2 1-1-3	特定施設入居者生活介護(有料老人ホーム)事業を行うに当たっては、介護保険法を中心とする多くの法的規制を遵守することは、事業者者に求められる最低限の責務であります。一方で、事業者が目指すサービス提供に関する考え方や自主的な事業者の活動方針等を纏めた所謂「自主行動基準」が策定されていませんでした。入居者やご家族等の利害関係者に対する事業者の姿勢、責務を明確に規定することで、運営の透明性を高めると共に信頼関係の構築に寄与でき、更には、全ての職員が共通の目標を持って業務に当たることが出来る等、「自主行動基準」を策定するメリットは大きく、早期の策定に尽力されることを期待します。その上で、「自主行動基準」の職員に対する周知や、遵守すべき法令についての計画的な研修の実施が望まれます。
1-4-1	人材の系統的・計画的な育成は法人並びにホームの事業運営にとって極めて重要であります。ヒヤリングの中では、そうした人材の育成計画が確認出来ませんでした。新規採用者については新人研修が行われているとのことでありますが、実施記録の確認も出来ませんでした。ホームとしての職員は常勤換算で17名程度と比較的少人数での運営となっていますが、職員1人1人に対する人材育成を目的とした、計画的な育成計画の策定並びに研修の実施が望まれます。
2-2-11	入居者の契約終了に伴う居室の原状回復に関する具体的な取扱い規程の策定は、関係者間のトラブル発生を予防する為にも極めて重要な要素であります。現状では、入居契約書の(原状回復の義務)条文上の規定しか確認することが出来ませんでした。国土交通省の原状回復ガイドラインを踏まえたホーム独自の原状回復に関する具体的な取扱い文書の策定が望まれます。その上で入居契約時に丁寧な説明を行い、関係双方の十分な理解と納得の上での入居契約に繋がる取組が求められます。
2-3-6	ホームが適切な運営を行う上では、入居者やご家族の意見や要望を的確に取り入れることが必須の要件となります。又収支状況や運営状況について、文書による定期的な報告並びに説明の機会の確保は、運営の透明性に繋がります。そしてその積み重ねが双方の信頼関係構築に大きく寄与する結果となります。ヒヤリングの結果では、年2回の運営懇談会において口頭で報告・説明を行っている、とのことですが、最近では運営懇談会へのご家族の出席も徐々に増えてきている、とのことですが、折角のそうした機会をより充実したものとすべく、文書による報告・説明に努められることを期待します。

5-1-1	入居者にとって最も楽しみのひとつが食事です。ホームの食事は、同じ敷地内にある3世代交流センターの厨房で作られたものがホームに運び込まれてきます。選択メニューは昼食のみ2週間前に希望を聞きながら、月2回実施しています。入居者の嗜好やその日の気分で、選べる食事メニューがあることは、入居者のQOLの向上に繋がるものと思われま す。朝食にご飯かパンか、と言った比較的实现し易い所からの取り組みを検討されては如何でしょうか。
6-2-8	ホームと、入居者のご家族等との連携は極めて重要な要素であります。どういう情報を、ど ういう時に伝達・報告をするのか、一定のガイドラインをホーム内で取り決めておくことも重 要です。その上で、少なくとも月1回以上、及び必要な都度、報告を行うことが求められて いますが、ホームの現状では、月1回以上の定期的な報告は出来ていないとのことです。 先ずは、月1回以上、文書や電話等による入居者に関する状況報告が定着化されること が望まれます。
7-5-1	入居者1人ひとりの状況に応じた木目細かなケアプランに基づくサービスの提供は極めて 重要です。ホームの入居者の現状では、体位変換に介助が必要な方は概ね3名おられる とのことです。褥瘡予防に関するマニュアルの整備がなされていません。褥瘡から感染 症を引き起こす危険性も理解しながら、マニュアルの整備とそれに従った適切な褥瘡予防 に努められることを期待します。